

## 令和 8 年度(2026 年度)事業計画書

令和 8 年(2026 年)1月1日～令和 8 年 12 月 31 日

令和 8 年度事業計画について、定款に基づき下記の事業を行う。

1. 第 33 回日米草の根交流サミット 2026 フィラデルフィア大会の開催
2. 第 34 回日米草の根交流サミット 2027 高知大会開催準備
3. 2028 年以降の日米草の根交流サミット開催準備及び開催地発掘
4. 情報の発信

### 1. 第 33 回日米草の根交流サミット 2026 フィラデルフィア大会の開催

開催地: 米国ペンシルベニア州フィラデルフィア及び周辺都市

共催団体: 広域フィラデルフィア日米協会(JASGP)、CIE-US

開催時期: 2026 年 10 月 20 日(火)～27 日(火)

内容: 第 33 回日米草の根交流サミットをペンシルベニア州フィラデルフィア及び周辺都市において開催する。主催は、CIE、CIE-US および JASGP。

#### **【フィラデルフィア大会の概要と準備】**

2020 年にキャンセルとなってしまったフィラデルフィア大会だが、2026 年のアメリカ独立 250 年の記念に合わせ、リベンジ大会として、広域フィラデルフィア日米協会(JASGP)の全面的な協力を得ながら開催準備を進めている。これにより、コロナ禍期間にズレの生じたサミット大会のサイクルが正常(偶数年にアメリカ開催、奇数年に日本開催)に戻る。また、在ニューヨーク総領事館の支援も JASGP より仰ぎ、ご協力を得ながら、独立宣言がなされた地での開催にふさわしい記念となるプログラム作りを進めている。

到着 2 日目に催される開会式典は、独立記念館前のインデペンデンス・ビクター・センター内施設「リバティー・ビュー」を予定している。

また、フィラデルフィアで誕生した「フィラ・ニポニカ」という言葉に因んだフィラデルフィアと日本を結ぶ歴史的絆を、この機会に紹介する。

一つは、開会式典に向かう際、フィラデルフィアの歴史地区に立地する宿泊ホテルであるウィンダム・フィラデルフィア・ヒストリック・ディストリクトから式典会場まで、フィラデルフィア史を代表する施設や、日本初

の公式使節団が訪れた施設の見学を含んだウォーキングツアーを行う。

二つ目に、オープニング式典で、フィラ・ジャポニカの紹介、最後に、オープニング式典後にローゼンバック博物館図書館を訪問し、同館所蔵の『漂異紀畧』の写本の1つである「キューリン本」閲覧を予定している。

大会3日目、10月22日(木)からは、フィラデルフィア市とその周辺地域でそれぞれの地域分科会プログラムを3泊4日の日程で開催する。

- ① フィラデルフィア・センターシティ
- ② サウス・フィラデルフィア
- ③ サウス・ジャージー(ニュージャージー州)
- ④ サワースモア
- ⑤ メインライン
- ⑥ ノース・ウェールズ&グリーンレーン
- ⑦ ランカスター
- ⑧ ベツレヘム

大会6日目、10月25日(日)のクロージング式典とそれに続くフェアウェル・パーティーはヴィラノヴァ大学キャンパス内に立地する宿泊施設の会場で準備を進めている。参加者はホストファミリーと共に会場に集まり、家族と共に式典に参加する。

### 【スケジュール】

10/20(火)		日本出発・フィラデルフィア到着	ホテル泊
10/21(水)	AM	歴史ウォーキングツアー	ホテル泊
	PM	オープニング式典・ウェルカムレセプション ローゼンバック博物館図書館訪問	
10/22(木)	AM	地域分科会へ出発	ホームステイ
	PM	地域分科会プログラム	
10/23(金)	終日	地域分科会プログラム	
10/24(土)	終日	ホストファミリーと過ごす一日またはプログラム	
10/25(日)	AM	ホストファミリーとの時間	ホテル泊
	PM	クロージング式典・フェアウェル・パーティー	
10/26(月)	AM	帰国(27日(火)着)またはポストサミットへ出発	

### 【ポスト・サミット・オプション・プログラム(10月26日～)】

サミット終了後、オプションのプログラムとして、次の3つのプログラムを準備する。

① フェアヘイブン/ブリストルホームステイ (1泊) & ボストン (1泊)

※協力：ホイットフィールド・万次郎友好協会、南ニューイングランド日米協会 (JASNE)、ボストン日本協会

② バージニアホームステイ (2泊3日)

※協力：タエコ・フロイドさん、ナオコ・ホシ・アシュマンさん

③ ニューヨーク・フリー (2泊)

## 2. 第34回日米草の根交流サミット2027 高知大会の開催準備

開催地： 高知県内市町村

共催団体： 高知県庁、土佐清水市、CIE-US

開催時期： 2027年 5月25日～31日

内容： 第34回日米草の根交流サミットを高知県内の市町において開催する。主催は、CIE、CIE-US、高知県庁および土佐清水市

### 【高知大会の概要と準備】

高知県庁と土佐清水市の協力を得ながら開催準備を進める。万次郎生誕200年あたる2027年に万次郎の生誕の地で、万次郎と彼を救ったホイットフィールド船長から始まった友情と、彼の功績、そして日米交流の礎を祝う記念サミットとして、高知県文化国際課と土佐清水市企画財政課と準備を進めている。

オープニング式典を万次郎の生家のある土佐清水市で、クロージング式典は高知市内で開催を予定している。

地域分科会受け入れ地域の協力要請や生誕200年記念となるプログラム内容の充実を、主に高知県文化国際課と進めていく。

また、アメリカ人参加者の募集は、CIE-US や全米日米協会の協力を仰ぎながら行う。

さらには、全国の万次郎関連団体との連携を図りながら、万次郎生誕200年に合わせた活動とともに、サミット大会の広報に努めていく。

## 3. 2028年以降の日米草の根交流サミット大会の開催地発掘

2028年以降、アメリカでの大会については全米日米協会 (NAJAS) および各地の日米協会と、日本での開催については、都道府県の国際

課や日米協会、また、万次郎および国際交流に興味のある団体と交渉を進めながら、引き続きサミット大会開催地の発掘を随時行っていく。

#### 4. 情報の発信

(1) ニュースレター「草の根通信」

令和8年度中に4回発行する。財団ウェブサイトに掲載するとともに、必要部数を冊子として製本し、賛助会員、寄付者、サミット大会開催地の関係者、ボランティア等に配布。今後のサミット大会開催に関する広報機能も有したものとする。また、昨今の配送費や他物価上昇に際し、配送方法の検討も進めていく。

(2) 活動報告書(アニュアルアクティビティレポート)の刊行

内 容: フィラデルフィア大会を主とした令和8(2026)年度中の活動報告。  
日英の両言語表記。

配布先: 財団及び大会・交流プログラム関係者  
広報資料としても活用。

(3) 電子媒体

① ホームページおよび SNS の活用

財団紹介の第一の広告ツールとしてのホームページをリニューアルも含めて整備する。ウェブ技術の向上に伴い、現在のホームページで使用されているコードは既に非推奨となっており、早急な対応が必要となっている。利用者が最新情報や財団の活動全体を常時参照できるツールとして利用できるよう整える。

また最新のサミット大会情報にアクセスしやすいものとし、参加者募集により直接的に役立つものとする。また、今後電子書類やオンライン申し込みなど、メール配信による情報発信の促進につなげる。

〈現在配信中のサイトおよび SNS〉

ホームページ: [www.manjiro.or.jp](http://www.manjiro.or.jp)

資料ページ: [www.grassrootssummit.net](http://www.grassrootssummit.net)

Facebook: @manjiro.grassroots

Instagram: @manjirocie

以上